

教育を受ける権利の実質化をめぐる

—教育を受けた経験は（貧困層の）子ども・若者に何をもたらすのか—

2023年11月18日(土) 14時～17時30分

対面開催（沖縄大学 本館 H-102教室）

参加費：無料

シンポジスト

山野 良一（沖縄大学人文学部教授 福祉学科長）

「子どもの貧困を考える：沖縄子ども調査から」

大江 将貴（九州大学大学院人間環境学研究院助教）

「非行からの離脱と修学—
—非行経験者に対するインタビュー調査にもとづく検討」

神谷 康弘（名護こども食堂副会長／東京学芸大学客員准教授／沖縄工業高等専門学校地域連携コーディネーター）

「沖縄の貧困問題 名護こども食堂と地域課題解決型学習の導入」

司会

元兼 正浩（九州大学）

入江 優子（東京学芸大学）

指定討論

藤井美保（熊本大学）

企画

元兼 正浩（九州大学）

針塚 瑞樹（別府大学）

概要

総合部会では、一昨年度に「教育機会確保法（「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」）の成立5周年を機に夜間中学から考える」というタイトルで教育を受ける権利の実質化をめぐる議論に着手した。さらに昨年度は、同法のもう一方の関係者、当事者となる不登校児童・生徒の視点から再検討を行っている。

第75回大会の開催地である沖縄県は、歴史的、政治的な文脈下で、①子どもの相対的貧困率、②1人当たり県民所得、③非正規の職員・従業員率、④母子世帯出現率、⑤生活保護率、⑥就学援助率、⑦高校中退率、高校進学率・大学進学率など、教育を受ける権利の実質化について検討すべき課題が多くあるが、これは沖縄だけの問題ではない。

こうした厳しい現実到我々はどのように向き合えばよいのだろうか。そこに教育の可能性はないのだろうか。本総合部会では、そうした問題意識にもとづき、学力保障や発達保障も不十分で、低学歴層の若者の生活や意識がどこに向かっているのか、そして教育を受けた経験が当事者に与える「正の影響」といった教育の可能性についても考えてみたい。

理論的、実践的にこうしたテーマに関わってこられた3名のパネリストからの報告をもとに、指定討論を口火として、フロアとも活発な意見交換の場となることを期待している。